



# 日本の洋菓子界の先駆者 その精神は子から孫へ引き継がれ 今も繊細な技術を伝え続けています



HITO

しのぶ  
**森田 忍さん**  
(洋菓子づくり技術伝授者)

昭和43年にはロクシーを離れ、松本の和菓子の老舗開運堂の洋菓子部門の設立に尽力。定年後はプロの洋菓子界からはきっぱり身を引き、趣味で始めた陶芸は、今では師匠の代理で陶芸教室の指導を努めています。お菓子づくりのプロの精神はしっかり息子さんが引き継ぎ、お孫さんもフランスへ修行に旅立たれます。

昭和7年、銀座で洋菓子の製造卸をしていたオリンピックというお店で、同店で修行を続け工場長にまなび、同店で働いていましたが、もう洋菓子どころではありません。終戦までの数年は軍需工場で働き、戦後、コックだったお兄さんの紹介で八重洲ホテルのベーカリーで働いたのが復帰の第一歩です。以降請われて帝国ホテル、山王ホテルなどのチーフベーカ

リー、甘いケーキ、クッキー…あなたは何か好きですか。今日は洋菓子一筋に、戦前から戦後の日本の洋菓子界で活躍され、今はプロの技術を主婦の皆さんに伝えていらっしゃる森田さんを紹介いたします。森田さんが洋菓子の世界に入ったのは



生徒さんとの歓談も楽しみのひとつ

現在、ロクシーで腕前が広まり、公民館の講座やサークルの講師を務められる忙しい毎日です。「私がこうしてとても幸せな毎日なのは、いつも周りの人たちに助けられてきたからだと思います。軍需工場で働いたのも戦後、一流ホテルを次々に経験できたのも…」と語る森田さん。平成4年には五十数名のお弟子さんが日本全国から集まり、森田さんの金婚式を祝ってくれました。受けた恩はしっかり多くのお弟子さんに返していたのです。これからますますの人の人にやさしさと甘いお菓子のおいしさを伝えていってください。

頭に当時の著名な家の令嬢が多く、これらの申込書は今も大切な宝物だそうです。「ご婚約の時期と重なり、私も随分記者に押しかけられました。結婚後は宮内庁を通じ、皇太子様にレモンパイを作って差し上げたいと、問い合わせもありました。」と懐かしそうに森田さんは語ってくださいます。

ーとして腕をふるいました。昭和27年に友人と(株)ロクシーベーカーリーを赤坂へ設立。店舗は六本木、日本橋、軽井沢と増えていき、日本で初めて洋菓子教室を開いたのもこの時期です。生徒さんは、現在の皇后陛下を筆

## 狭山の生態系

64

### チゴモズ (スズメ目モズ科)

全長18・5cm。モズに比べてやや小さく、頭は青灰色、背から尾は赤褐色で黒色の横斑があります。くちばしはほかのモズに比べて太く、雄の過眼線は黒く、喉・ほほ・下面は白です。雌は過眼線が不明で、側胸・脇に黒褐色の横斑があります。日本には夏鳥として5月上旬ごろから本州中部以北に局地的に渡来します。低地から低山の明るい落葉広葉樹などに生息し、昆虫などをえさとしています。早くにえの習性があります。市内でも以前には5月に稲荷山公園や入間川河川敷などで定期的に観察されていました。



撮影：県生態系保護協会狭山支部  
矢内昭夫さん(水野)